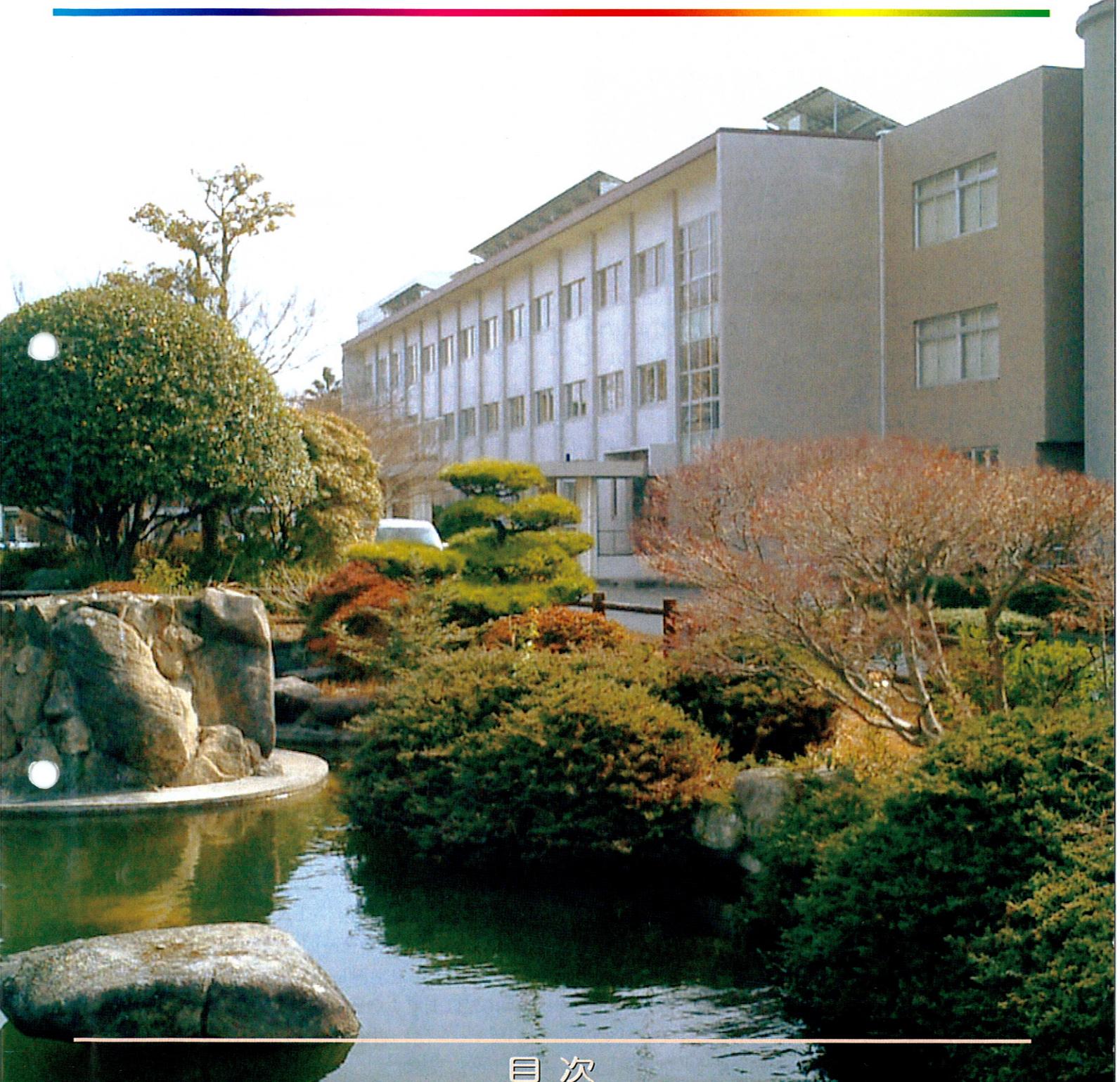




有明高専だより

第118号
2006. 3



目次

特集 学修単位の導入	2	冬季球技大会／ロボット出前で活躍	12
シリーズ 卒業を控えて	4	新学生会／体育系クラブリーダー研修	13
シリーズ 人物・いま	6	岱明寮だより	14
写真で振り返る一年間	8	留学生送別会	15
シリーズ 研究室訪問	10	トピックス・編集後記	16
シリーズ 企業訪問（一卒業生を訪ねて）	11		

※本文中ににおいて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科)

やまち
楊梅の前庭から一般教育棟を望む

特集**学修単位の導入**

平成18年度から4年生へ学修単位が導入されることになりました。そこで、教務主事の氷室先生に学修単位のことについてインタビューしました。

Q : 学修単位というのは、そもそもどういう単位のことなのですか。

これまでの高専の各授業科目の単位数は、「30単位時間の履修を1単位として計算するものとする」と高等専門学校設置基準に定められています。これを「履修単位」と呼んでいます。ところが、2005年9月高等専門学校設置基準の一部を改正する省令が公布され、施行されることになりました。この内容ですが、「高専が定める授業科目については、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算することができる」となっています。ここに新たに「学修単位」が導入されたことになります。

次の基準とは、「講義および演習については、15時間から30時間までの範囲で高専が定める時間の授業をもって1単位とする」ということと、「実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で高専が定める時間の授業をもって1単位とする」という二つです。ただし、学修単位の合計は、60単位を超えないことになっています。

Q : 学修単位導入の意義について教えてください。

学修単位というのは、現在大学や高専の専攻科で行われている授業の単位のことです。したがって、学修単位を導入することで、大学など他の高等教育機関との互換性を高めることができますので、学生諸君の円滑な移動が確保されることになります。また、多様な授業形態や自学自習の教育効果を考慮した指導方法の導入など、各高専の創意工夫に基づく柔軟なカリキュラム編成を実現することができるようになりました。さらに、学修単位の導入で、従来高専生では評価されていなかった自学自習時間が単位の計算において換算され

ることとなり、これを契機として、自学自習のトレーニングに重点をおいた自ら考え行動する実践的な技術者教育が展開できるようになりました。

Q : 学修単位について具体的に説明してください。

4年以上の主な専門科目には学修単位が導入されます。その学修単位科目には、1単位15時間の講義と1単位30時間の講義が行われるようになります。1単位15時間の講義は30時間の自学自習をしなければならないし、1単位30時間の講義は15時間の自学自習をしなければならないのです。

Q : そうすると毎日の自宅学習はどれくらいすればいいのですか。

学修単位が1日のうちで2時間（1単位15時間の講義）あると4時間の自宅学習をしなければならなくなります。ただし、他のレポート等が忙しくて、その日に4時間を確保できなければ、土曜日や日曜日を使って自学自習をやってもかまいません。

Q : 高専の学生はあまり自宅学習していないと言われますが、どうでしょうか。

「昔の高専生は優秀だった」とよく言われますが、それはよく自宅学習をしていたからなのです。図1に学生の自宅学習時間の推移を示しますが、2時間以上自宅学習している学生は、1966年では80%以上ですが1998年には10%以下になっています。一方、自宅学習を1時間以内しかしない学生の割合は非常に増えていました。そこで、本校では2000年度から動機付けのための導入教育、混合学級や補習制度を取り入れました。図2に1998年度以降の自宅学習時間の推移を示しますが、ほとんど自宅学習しない学生の割合は10%程度減少しました。しかしながら、2時間以上自宅学習する学生の割合は5%に過ぎません。

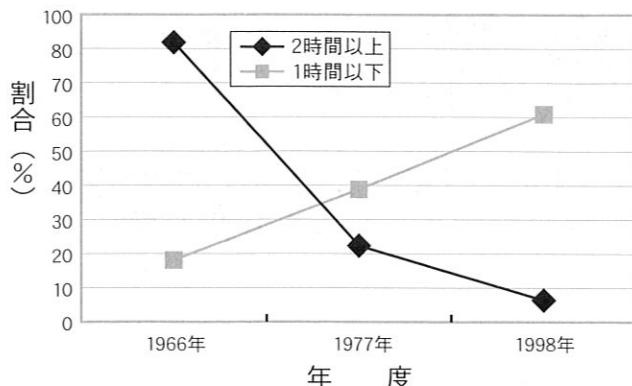


図1 学生の自宅学習時間の推移

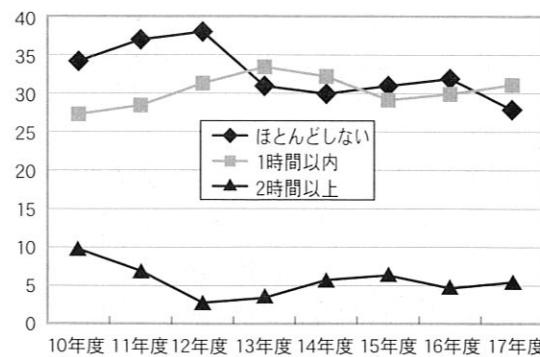


図2 平成10年度以降の学生の自宅学習時間の推移

Q : どうして高専の学生は自宅学習をしないのでしょうか。

ほとんど自宅学習をしない学生にその理由を尋ねたところ、40%の学生が「やる気がしない」と回答しています。「疲れていてできない」が30%、「時間がない」が16%、「勉強もわからず、何をしたらよいかわからない」が9%、「家庭の事情でできない」が1%と、多くの学生が単に「やる気がない」だけの理由で自宅学習をしていないようです。得られたデータから判断すると、入学した時点ででっかり自宅学習する習慣をつけなければいけないと思っています。

Q : 自宅学習している学生はどんな内容をしているのですか。

表1に主な自宅学習内容の割合と平均学習時間を示しています。平均家庭学習時間は極めて短時間で、ただその内容だけが学年で大きく相違していることがわかります。すなわち、学年進行とともに、授業の予習、復習時間が顕著に減り、それに替わってレポートや製図などの課題学習の割合が大きくなっています。くさび型のカリキュラム構成のため、上学年になる程専門科目が増加

し、そのレポートや課題作成のためにかなりの時間が必要となっているためだと思います。しかし、上学年になっても学習時間は増えず、その時間もかなり短いため、その大部分をレポートや製図などの提出物作成に費やしている状態でしょう。特に、「その他」の時間を自主的学習の時間と好意的に解釈しても、その学習時間は平均的に数分に過ぎません。

Q : 学生は学習の面で特にどんなことを心がければよいのですか。

学修単位が導入されるから自宅学習をしなければならないと思うようではダメです。学生に「学習意欲はありますか」と訊ねたところ、74%の学生が「はい」と回答しています。ここ10年ほどの数値は変化していません。学生は学習意欲をもってはいるが、勉強できないでいる状態にあるようです。もちろん、我々も学生が自宅学習をするシステムをつらなければならないと思っていますが、いかに学生諸君が自ら主体的に勉強するかが重要なのです。今からは「知識社会」の時代なのです。自己学習能力を身につけなければ充実した人生はおくれないと思います。

表1 自宅学習時間を占める主な学習内容の割合と平均学習時間

学年	予習 復習	レポート 製図	その他	平均学習 時間
1年	53%	37%	9%	1.1時間
2年	35%	55%	10%	0.6時間
3年	23%	69%	8%	0.8時間



卒業を控えて



卒業を目前に控えた5年生に、高専生活での思い出やこれからのことについて語っていただきました。

出席者	中島 優作さん (5M)	上土井千秋さん (5E)	石橋 絵美さん (5I)
	鳥巣 友希さん (5C)	高栄 智史さん (5A)	
司会	藤本 大輔先生 (C科)		



C科 藤本 大輔先生

司会：先ほど高専生活最後の定期テストを終えたばかりでお疲れだと思いますが、よろしくお願いします。今日は5年間の高専での思い出について語っていただこうと思っています。まずは高専生活5年間を振り返っての感想をお願いします。

中島：あっという間の5年間でした。5年生のときの体育祭とロボコンが重なって本当に大変でしたが、今となってはいい思い出です。

上土井：単位が厳しいときもありましたが、無事卒業できそうでよかったです。

石橋：あっという間に5年間が過ぎました。5年生のときの体育祭が楽しかったです。高専に入ってやりたいことを見つけることができました。

鳥巣：大学受験とかもなく、のびのびと過ごせました。自分には高専がすごく合っていたと思います。

高栄：僕は工業高校からの編入学生なのですが、とにかく忙しかったです。でも楽しかったです。

司会：高専にきてよかったと感じたのはどんなときですか？

鳥巣：体育祭や高専祭なんかのイベントはすごく盛り上がります。こんなにみんなと一緒にになれることはないと思います。

高栄：それは僕も感じます。この一体感は高校のときでは考えられないですね。本当にびっくりしました。

中島：僕は進路がいろいろ選べるのがよかったです。そのまま就職することもできますし、大学や専攻科に編入学することもできます。僕は大学に進学することになりました。



5M 中島 優作

上土井：高校よりも設備が整っていることですかね。クーラーや暖房もありますし。

石橋：専門的な分野の勉強がみっちりできることです。

司会：クラブ活動の思い出を教えてください。

鳥巣：弓道部に所属していました。楽しかったけどいい成績を残せませんでした。だけど今後も弓道を続けたいと思います。

石橋：私は陸上部に所属していました。高専大会ではいい成績を残せました。顧問の先生方に感謝しています。



5C 鳥巣 友希

上土井：僕はサッカー部に半年間所属していました。当時はやりたいことがあってクラブ活動を辞めましたが、今思えば続けていたほうがよかったと思いました。

高栄：僕は編入生ということもあり、部活には入っていませんでした。高校時代はテニス部に所属していました。

中島：僕は二つの部に所属していました。ソフトテニス部では、あまりいい成績は残せませんでしたが、ロボコン部では全国大会に出場することができました。

司会：高専生活で1番がんばったことは何ですか？

高栄：製図の授業です。建築学科は、卒業研究の他に卒業設計の授業があります。製図の提出前は平均1時間睡眠でがんばっていました。

鳥巣：学生会の仕事です。体育祭のときは、運営と卒業研究の中間発表が重なったこともあり本当に大変でした。

石橋：私は体育祭の応援団と大学の編入試験が重なりました。結果的には全部いい結果を得られたのでよかったです。

上土井：僕が大変だったのは進級ですかね。（笑）体育祭の応援団長も大変でした。

中島：僕は部活ですね。3年生からロボコン部で、

全国大会に向けて挑戦し続けました。今年はリーダーとして全国大会に出場できたのがうれしかったです。

司会：みなさんは後1ヶ月半後には高専を卒業し、新天地でがんばっていると思います。就職もしくは進学してまず最初にやりたいことはなんですか？

上土井：僕は就職したら車がほしいですね。一。リンカーンとか、ナビゲーターとか。

(笑)

石橋：まずは学校に慣れたいです。編入生は友達作りが大変って聞きますし。

中島：進学したら英語力を高めたいです。

高栄：僕はやりたいことがいっぱいあります。進学したら芸術に関する勉強をしたいです。そして、ちょっと芸術系のマニアックな友達ができたらうれしいですね。(笑)

鳥巣：私は自分の学科とは関係が薄い半導体関係の会社に就職します。ゼロの状態からどれくらい自分が通用するのか、がんばれるかを試せるのが楽しみです。



5 I 石橋 絵美



5 E 上土井 千秋

中島：機械科は反対に男子が多いですね。自慢は団結力が強いことです。

石橋：うちは・・・、みんなタイピングが早いことですかね。(笑)

一同：(笑)

高栄：うちのクラスだけかもしれません、困ったときの助け合いがすごいです。特にテスト前とか。(笑)

司会：後輩たちに一言お願いします。

高栄：在学中は視野が狭かった。もっと広い世界があることを知ってほしいです。

鳥巣：イベントで盛り上がり、思い出をいっぱい作ってください。

中島：微分、積分をがんばってください。愈けると後々まで響きます。

上土井：これからも熱いイベントを続けてもらいたいです。

石橋：つらいことも決してあきらめずにがんばってください。

一同：そして恋をしてください。(笑)

司会：最後になりましたが、高専生活での「思い出の場所」があれば教えてください。

中島：僕は実習が一番楽しかったので実習工場です。

上土井：半年しかいなかつたんですけど、寮です。

石橋：部活や体育祭の応援団でお世話になったグラウンドです。

鳥巣：学生会室です。主事室の先生方にはお世話になりました。

高栄：高専坂、寮・・・、いや、すべてが思い出の場所です。(笑)



5 A 高栄 智史





人物・いま

退職教職員

平成18年3月をもって退職される教職員6名の方に、次の3つの質問に答えていただきました。

Q1 高専で最も思い出に残ることは?

Q2 高専あるいは学生に望まれることは?

Q3 今後のことについて一言



機械工学科
猿渡 真一教授

A1 本校に39年間勤務させていただきました。一番想い出に残ることは、九州地区高専大会（硬式野球）で優勝したとき、メンバーから胴上げをしてもらったことです。大会直前にレギュラーの一人（5年のA君）が不祥事を起こして出場できなくなりましたが、チームがよくまとまって優勝することができました。A君にとっては最後の大会だったのですが、他のメンバーが「全国大会出場」というプレゼントをA君にもたらし、A君も全国大会へ出場することができました。

A2 能力を備えているのにそれを充分に磨いていない人が学生諸君の中に多くいるような気がします。学生時代にしっかりと身に付けたことはいつまでも残っていると私自身は思っています。高専祭や体育祭に取り組むときと同じ気持ちで色々なことに立ち向かって下さい。

A3 足・腰が弱って来ているのを痛切に感じているので、まず歩くことから初めて何か運動をやり、少なくとも現状を維持することに努めようと考えています。

最後に、教職員の皆様と学生諸君のご健康と益々の活躍を祈念いたします。



物質工学科
松本 和秋教授

A1 私はしばらく学生と一緒に下宿生活をしておりましたが、その中にギターを弾きながら歌を歌っている学生が一人いました。彼が卒業する頃、自分で作詞・作曲してレコード会社で友達とギターを弾きながら歌を吹き込み、自費製作のレコードを作ったのには驚いたものです。才能のある学生がいるのだなと思いました。

A2 基礎的な学力を身につけておれば、困難な課題等に対しても解決できるようになるのではないかでしょうか。あきらめずに辛抱強く勉学・実験・クラブ活動等に頑張って下さい。

A3 九州百名山を退職するまでに達成するつもりでしたが、残念ながら離島の山がいくつか残ってしまいました。それだけは是非叶えたいと思っています。



機械工学科
高橋 将徳助教授

A1 とても難しい質問です。高専での思い出はどれも素晴らしいのですが、その中で、とくに感激したのは、私が着任してはじめて担任をしたクラスの学生が、本校の教員となって帰ってきてくれたことです。とても嬉しく思いました。

A2 高専生にひとつこと。皆さんはとても豊かな才能と個性をもっています。これを開花させるためには、「素直であること」と「自立すること」が大切ではないかな、と思います。高専には素晴らしい先生がいらっしゃいます。先生方から様々なことを吸収して、次世代のリーダーとなるようなエンジニアになってください。私も頑張ります。

A3 熊本にある大学で教鞭をとります。そこで、また学生とともに機械工学の勉強をしていこうと思います。まだまだ、勉強しないといけないことがあります。場所はかわりますが、これからもご指導よろしくお願いします。



教育研究技術支援センター
上原 弘技術専門職員

A1 実習工場ではいつも大声で厳しく指導していたにもかかわらず学生達は文句一つも言わず機械に向かい一所懸命に図面を見ながら製品を作ってくれてありがとうございます。

また、ロボ大蛇制作では技術職員全員の協力で完成し大牟田駅に据え付けることもできました。NHKロボコン全国大会で国技館へ行くことができ、テレビでしか見られない東西の支度部屋や風呂場等の見学が出来たのが思い出に残っています。

A2 5年間の学生生活ですので、留学生を作らないようクラス全員が協力し合い、みんな立派な技術者として卒業できるようにガンバッテ下さい。

A3 今後は、少しの田んぼ、果樹園、竹林があるので農業をしつつ趣味の釣り、ゴルフ、植木いじり等を楽しみながら過ごしていきたいと思っております。

最後に卒業生、教職員、学生の皆様の健康と今後の活躍をお祈りいたします。



学生課
山下政行専門員

A1 昭和46年1月12日に柔道部2年生部員が練習中に負傷して体に麻痺が残り、損害賠償訴訟になり迷惑をかけたこと。事故後、部員は今まで以上に熱心に練習に励み、翌年度の九州地区高専体育大会では、団体戦と個人戦3階級全てで優勝することができました。

また、昭和48年度の全国高専大会では、団体戦準優勝、個人戦中量級優勝、軽量級準優勝・3位を勝ち取ったこと。

A2 学生時代は、人の一生のうちで一番大切な時期であると思います。この時期の時間の価値は社会人になってからの5倍以上だと思います。そのことを常に念頭に置いて勉強もクラブ活動も一所懸命頑張り沢山の感動を経験して卒業してもらいたいと思います。

A3 今まで毎年、年度末・年度始めに色々な仕事が山積してストレスを一杯ためていたので、今後はのんびりした生活をしたいと思います。とりあえず自分の家と義母の家の庭の手入れと時間が余れば近くの児童公園の草刈り作業でもしたいと考えています。



会計課
神代洋子主任

A1 昨年秋のロボットコンテスト九州沖縄地区大会です。以前から、高専のロボットコンテストにはとても興味があり、よくテレビで見ていました。それを地区大会ですが、間近で見ることができたのです。細長くなったり、縦に長くなったりしながら、いくつもの障害物をクリアし、最後には壁をよじ登っていくロボットにとても感動しました。

A2 学力も必要ですが、マナーも大切だと思います。課外活動や学生会の活動などを通して、様々なことを経験し、素敵なお大人になってください。社会での活躍をお祈りします。

A3 まだ何も考えていません。しばらくはゆっくりとした時間を楽しみたいと思います。ただ、今まで続けてきた華道のお稽古と、気が向ければ書道を再び始めたいと思っています。

永年勤続表彰

永年勤続20年の方々にインタビューしました。



機械工学科
南明宏助教授

◆20年間での一番の思い出

思い出は沢山あり、感謝に尽きませんが、その中で、研究面では1150℃に加熱した金属材料を金型で叩いて変形させる実験(専門的には熱間鍛造といいます)を卒研生と一緒に何回も行って、型疲労を調べたこと(型

が疲労する前に人間が疲労することもしばしば)です。部活では九州地区高専体育大会において、硬式野球部が20数年振りに優勝し、選手達から胴上げをしてもらったことです。あのときの歓喜、感謝は生涯忘れられません。

◆20年前と今について

- ・学生達との付き合いがウェットからややドライなものへと変わったこと(それでも本校の学生達はまだまだ人情味溢れていると思いますが)。
- ・私の作成する試験問題が易しくなってしまったところ(以前として学生からは不評ですが)。

◆20年で自分が変わったところ

学生の名前と顔が一致しないことが増えたことや相変わらずコンピュータに弄ばれていること。典型的なメタボリックシンドローム体形になってしまったこと。

◆モットー

意識が変われば行動が変わる、行動が変われば習慣が変わる、習慣が変われば成果が変わる。

◆学生に一言

早起きをしましょう。朝食を食べて、身嗜みをきちんと整えて登校して下さい。1時間目から心も脳も体も全開モードで授業に突入して欲しいです。昼頃からテンションが上がるようでは1日がもったいない。



教育研究技術支援センター
河村英司技術専門職員

◆20年間での一番の思い出

NHKロボコン・エコラン・ソーラーボート・ロボットJリーグ・球技大会で学生をさしおいての優勝・九州の高専すべてに行なった九州地区高専体育大会・阿蘇研修で学生との登山・大牟田駅に設置した「ロボ大蛇」の一年にわたった制作・等々。でもやっぱり一番の思い出はたくさんの学生との出会いでした。

◆20年で自分が変わったところ

学生の若さが羨ましくなってきた頃から、毛髪が白くなり始めました。変わっていないと言いたいが体力の衰えが激しい今日この頃です。

◆これから生き方は?

きばらず、いそがず、ゆったりと時間に任せて、あるがままの自然体で。

◆学生に一言

20年後、30年後、高専での思い出を子供達や家族に語れる様に充実した学生生活を送ってください。



学生課
西口節子主任

◆20年間での一番の思い出

この20年間たくさん思い出がありますが、一番といったら鹿大に勤めている間、初任者研修で知り合った仲間と3人で国内を旅行したり、2ヶ月に1回当番で家に招き食事会をしたことだったと思います。今思えば、お互いの悩みや相談事などを何でも気軽に話せる機会が多くだったので、とても貴重なことだったと思っています。

◆20年で自分が変わったところ

前は20代の職員が半分をしめているところにいたので、ひとつの部や課で1泊旅行をしたり、市内の公園へ夜桜を見にいったりしていました。今は、仕事も複雑で忙しくなってきたせいか、そういうことをできなくなったり感じています。

◆これから生き方は?

公私にわたり多忙なときこそ、常に一番何が大切なことを考えて行動していく努力をしたいと思います。

入学式

4/8(金)、第1体育館で入学式が挙行され、225名が本校に入学しました。また、同じ日、24名の学生が専攻科へ入学しました。

新入生歓迎行事

学生会総会の後、学科ごとに分かれて、新入生の自己紹介や上級生のパフォーマンスが行われました。

新入生阿蘇オリエンテーション

2泊3日で新入生のオリエンテーションが行われました。阿蘇の大規模ななかで、これからはじまる高専生活の準備とクラスの連帯感を高めることができました。

**キャンバスクリーン作業****春季球技大会**

ソフトボール、バレー、水泳、卓球のそれぞれの種目をクラス対抗で競いました。最優秀クラスは5年機械工学科、優秀クラスは4年電子情報工学科でした。

高専体育大会

九州沖縄地区高専体育大会が、佐世保北九州の3つの地区で開催されました。上競技、バドミントン、水泳、卓球、ハンドボールおよびテニスの各競技で優秀な成績を収め、関東地区全国大会へ出場しました。特に陸上競技では、「男子100m」、「男子4×100mリレー」で全国優勝しました。

写真で振り返り**4月**

- 始業式
- 入学式・入寮式
- ロボットグランプリ
- 新入寮生歓迎行事
- 新入寮生歓迎夕食会
- 新入寮生歓迎夕食会

5月

- 4学年研修旅行
- 新入生阿蘇オリエンテーション
- キャンバスクリーン作業

6月

- 新人留学生歓迎会
- 岱明寮美化作業
- 春季球技大会
- 前期末試験
- 岱明寮協定調印
- 中国遼寧石油化工大学との姉妹校協定調印

7月

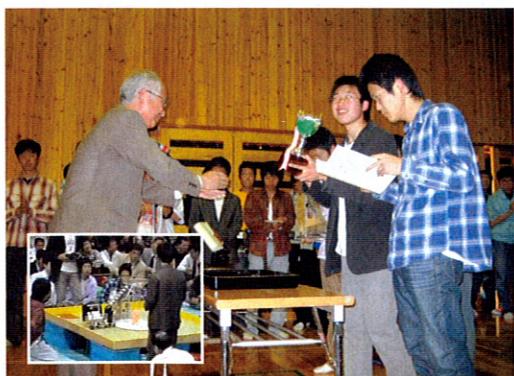
- 全校集会
- 九州沖縄地区高専英語弁論大会
- 九州沖縄地区高専体育大会

8月

- 日本高専学会年会
- 全国高専体育大会
- オープンカレッジ

9月

- 全校集会
- 前期末試験

ロボットグランプリ

今年度から新しく「ロボットグランプリ」が開催されることとなりました。この「有明高専版ロボコン」に出場した10チームの中から、初代チャンピオンとなったのは「MC'S(ムックたち)」(写真)でした。

姉妹校協定締結

中国の遼寧石油化工大学と姉妹校協定を結びました。写真は、尾崎校長から陳副校长へ記念品として押し花絵を手渡しているところです。

オープンカレッジ**JABEEプログラム「複合生産システム工学」修了証書授与式**

4学年から専攻科2学年までのカリキュラムで構成される「複合生産システム工学」プログラムがJABEE認定を受けました。最初のJABEE認定プログラム修了生となる平成16年度専攻科修了生に対し、プログラム修了証書授与式が大会議室で挙行されました。



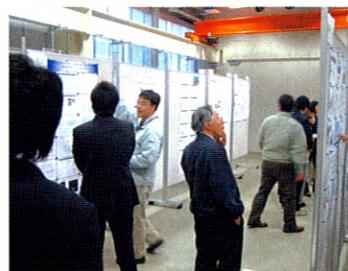
8月の夏休み期間開催されました。近々を知つてもらおう「ロボットJリーグ」の方々に参加してい会も同時に開催されました。

体育祭



専攻科ポスターセッション

専攻科学生の研究発表の場として行われているポスターセッションが、今年も総合研究棟で開催されました。それそれが取り組んでいる研究の紹介や成果を来場者に丁寧に説明していました。



晴天にも恵まれ、第24回体育祭が開催されました。学科対抗で競われる各種競技や、準備や練習を重ねてきた応援合戦に全力が注がれ、総合優勝を目指して熱戦が繰り広げられました。見事に総合優勝したのは電気工学科、敢闘賞は建築学科でした。また、応援・バックボード・マスコットの3部門では機械工学科が表彰されました。

校内見学会



久留米、本校は陸女子バスケで行われた子200m、

返る一年間

10月	11月	12月	1月	2月	3月
入試説明会・校内見学会 キャンバスクリーン作業 体育祭	機関別認証評価訪問調査 (ラグビー) 口ボコン九州沖縄地区大会	後期中間試験 ロボコン全国大会 冬季球技大会	献血	卒業研究発表会 吹奏楽部定期演奏会 寮生送別行事	卒業式 留学生送別会 入学試験 学年末試験

9

ジ



中に、「オープンカレッジ2005」が開催された小中学生や地域の方々に有明高専と今年はじめて企画されたイベントで、ややや楽しい体験コーナーなど多くのいただきました。また、日本高専学会年次、学術的な要素も含んだイベントに

吹奏楽部定期演奏会



吹奏楽部第37回定期演奏会が「響」をテーマに開かれました。大牟田文化会館大ホールで、たくさんの観客を前に、オリジナルステージ、クラシックステージ、ボビュラーステージの3部構成で演奏が繰り広げられました。

冬季球技大会



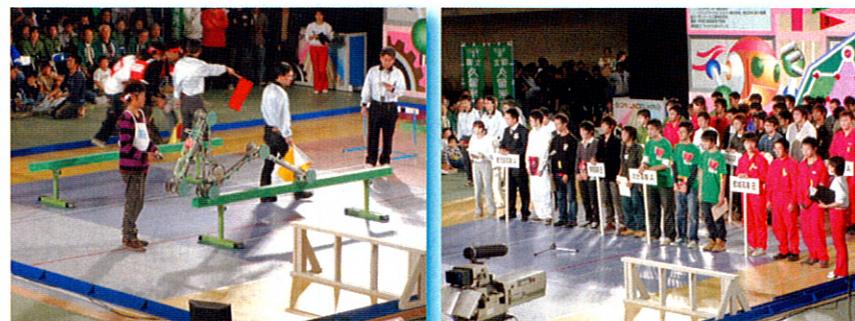
サッカー、ハンドボール、バスケットボール、卓球のそれぞれの種目をクラス対抗で競いました。最優秀クラスは4年機械工学科、優秀クラスは4年電気工学科でした。

寮生送別会(予餞会)



毎年恒例となっている卒寮生の予餞会が、岱明寮食堂で行われました。

全国高専ロボットコンテスト九州沖縄地区大会



今年の「ロボコン九州沖縄地区大会」は、本校が担当となり、荒尾市民体育館で開催されました。九州沖縄地区10高専から、それぞれ工夫を凝らした20台のマシンが出場しました。本校の「Heavy級」は決勝戦で鹿児島高専の「夢限」に敗れたものの、堂々の準優勝で全国大会に出場しました。全国大会では、初戦には勝利しましたが惜しくも次の対戦で敗退しました。

卒業式(平成16年度)





研究室訪問

今回は、電気工学科の塙本俊介先生と建築学科の新谷肇一先生の研究室を訪ね、お話を聞きました。

(聞き手 一般教育科 山口英一)

塙本俊介先生（電気工学科）



Q：現在の研究課題を教えて下さい。

「パルスパワー工学」という学問で、応用としては、(1)パルスパワーを用いた排ガス処理、(2)パルスパワーの林業応用です。

Q：パルスパワーとは、なんですか？

高電圧・大電流をナノ(10^{-9})からマイクロ(10^{-6})秒というごく短時間かけた時の巨大パワーでしょうか。一言でいうと雷です。

Q：電気棟横にあるシイタケのホダ木は先生の実験と聞きましたが。

上の(2)の応用として、キノコの増産実験をしているんです。昔から雷が落ちたホダ場ではキノコがたくさん採れるといわれていました。パルスパワーを使い人工的に雷を落としてシイタケをたくさん採ろうというわけです。現在でも最高2倍の収穫がありますよ。

また九州大農学部との共同研究では、エリンギ、ブナシメジの増産実験も行っています。こちらはこれまでに15%程度の増産結果が得られています。

Q：(1)の方は、どんな内容ですか？

発電所などから出る有害物質NOx、SOxを、通常の化学的な方法ではなく放電プラズマを用いて分解しようという研究です。NOx、SOxは酸性雨の原因になります。排ガス処理装置の建設・維持コストを抑え、全世界の国々に設置してもらい、地球から酸性雨を追放しようというのが狙いです。

なるほど、どちらも人々の幸福のための研究、ということなのですね。

新谷肇一先生（建築学科）



Q：まず研究分野を教えてください。

医療・福祉施設の建築計画です。建物の設計の際、そこでの生活や利用する人々の使われ方や要求をよく把握して、配置や平面構成・空間構成に生かしていくと考えるのが「計画」という分野です。それを病院や児童養護施設、特別養護老人施設などを対象にして研究しています。

Q：計画と設計とは、違うんですか？

計画とは、設計の前の段階の作業過程で、生活と空間の関わりを見て、そこに何らかの法則性を見つけ出していくことなんです。計画の良し悪しで、設計はガラリと変わってきます。きれいなデザインだけではなく、生活の仕組みとつながった建物、そこで生活する人々が快適で、使いやすい建物を考えることがとても大切です。

Q：大牟田市立総合病院の建設に、先生も関わられたと聞きましたが。

ええ、最初の構想計画の段階で委員長として関わりました。明治以降の日本の病院建築について博士論文をまとめたあと、ヨーロッパ8カ国の病院を3ヶ月かけて見て回りました。その後市から病院建設に知恵を貸してくれとの依頼があったのです。患者にとって過ごしやすい病院とはどんなものかを中心に議論し、まとめました。

Q：大牟田市駒馬（はやめ）地区公民館の設計にも関わられたとか。

若い人たちの発想を入れた新しいタイプの公民館を作りたいという依頼を受けて、建築学科の学生・卒業生と一緒に取り組みました。授業の中に取り入れ、卒業生の協力も得て、地域の住民の方々の意見を聞いて計画案を作りました。実際の設計に繋がる部分までやりましたね。卒業生は「5年間お世話になった地域への恩返しです」といつてました。



企 業 訪 問

—卒業生を訪ねて—

大牟田市役所都市整備部

(大牟田市有明町2丁目3番地)

業務担当：建築指導課および建築住宅課

本シリーズ第3回目は、大牟田市にある大牟田市役所都市整備部にお勤めの本校卒業生にお話を伺いました。年度末のお忙しい中、お集まり頂いたのは、青木邦敏氏（建築学科3期）、平山達也氏（建築学科12期）、谷本卓也氏（建築学科15期）、三浦雅善氏（建築学科19期）、諏訪本麻吏氏（建築学科28期）、宮崎綾氏（建築学科30期）の6名の方です。

（取材 A科 小野聰子）

小野：大牟田市役所で最初に携わった仕事あるいは今までに携わった仕事を教えてください。

平山：新谷先生にお世話になりました大牟田市立病院の基本構想から（病院の）引越までに携わったことが1番思い出に残っています。

谷本：今までに携わった主な仕事は、建築住宅課では公共建築物（小・中学校や市営住宅など）の設計・工事管理業務、都市計画課では開発行為の許可に関する業務、建築指導課では建築確認申請書の審査業務などです。

三浦：最初に携わった仕事は、大牟田市内の公園の公衆トイレの建築です。その後は、公共建築（学校・体育館・リサイクルプラザなど）の建設や市営住宅建設、区画整理事業での補償担当です。

諏訪本：最初は倉永小飼育小屋を担当しました。その後、公共建築物の營繕も担当しました。現在は、公共住宅整備事業の補修業務、事業マネージメントや監理をしています。思い出に残っている仕事は、自分で設計・現場整理した駒馬南消防団の拠点施設建設です。

宮崎：建築指導課での建築に関する審査・指導業務です。

小野：現在されている仕事に関連して、在学中にもっと勉強しておけば良かったと思う科目を教えてください。

平山：どの科目というよりも、進学してもう少し建築に関して勉強しておけば良かったと思っています。

谷本：学生時代は卒業することが目的の勉強しかしていなかったので、今になれば全科目についてもっと勉強しておけば良かったと時折思います。私の場合、卒業後に必要にせまられ勉強した感じなので、非常に苦労しました。学生時代に得た基礎学力は大事だと思います。

三浦：建築全般です。また、一般教養も勉強しておけば良かったです。

諏訪本：在学中の勉強と仕事で必要な知識は違うので、学生のときは自分が進みたい分野を模索して自分がしたい仕事を見つけることが大切だと思います。市役所では、専門科目については全般的な知識が必要ですので、苦手だった科目（構造や法規）を勉強しておけば良かったと思います。

宮崎：構造計算です。

小野：仕事を通じて得た喜びや仕事に対する誇りを教えてください。

平山：建築という仕事に携わり物づくりができまし



後列左から 青木、平山、谷本、三浦
前列左から 宮崎、諏訪本の各氏（企業局庁舎4階にて）

た。また、行政に携わり市民の方々に喜んでもらえたことです。

谷本：おそらく自分の寿命よりも長いと思われる建築物に携わる仕事ですので、我が子を育て上げるような気持ちで仕事に向き合っています。

三浦：途中で悩むこともありますが、最後に形になります、市民の方々が喜んでくださるので、その苦労も忘れてします。それが自分の喜びにもなります。

諏訪本：建築物が建ったときに喜びを感じます。また、自分の携わった事業が進み完成する達成感があります。

宮崎：自分が携わった建物が完成した時に喜びを感じます。また、窓口応対で最後にお礼を言われた時も同様です。

小野：仕事上で困ったことをどのように解決したかを教えてください。

平山：1人では解決できないので、諸先輩や同僚に相談しています。

谷本：良き上司や同僚に恵まれ、なんとか解決できました。自分自身の努力も必要ですが、くよくよせず相談するようにしています。

三浦：先輩や学校の先生などに相談します。また、学生時代の友達にも相談します。友達は大切にした方が良いですよ！

諏訪本：職場や業者の方々に相談しています。

宮崎：判断材料として様々な情報を収集します。また、上司や同僚に相談しています。

小野：学生時代にやっておくべきこと、あるいは、社会人として必要なことを教えてください。

平山：学生時代にはしっかり遊んで下さい。社会人として必要なことは常識を備えていて欲しいことです。また、そのほかとして、信念を持って欲しいです。また、自分の色を出して欲しいと思います。

谷本：時間の関係や見栄で、社会人になったらできないことがたくさんあります。学生だからできることをたくさん経験して欲しいと思います。社会人として必要なことは責任感です。逃げない！時間を守る！これが基本だと思います。

三浦：学生時代はオールマイティでなくてもOKで得意分野をのばすべきです。また、学校以外での社会人としての勉強が最も大事だと思います。

諏訪本：人脈のネットワーク作りだと思います。

宮崎：学生時代もっと勉強しておけばよかったとよく思うので、悔いのないように勉強してください。

小野：お忙しい中、本日はありがとうございました。

冬季球技大会

体育局長 41 辻 翔吾

昨年12月16日(金)、冬季球技大会が行われました。前日まで続いたぐずついた天気により晴天時競技による開催も危ぶまれていましたが、当日はなんとか天気も持ちこたえ、皆さんの協力もあり無事晴天時競技を行うことができました。各クラス、この日のために、朝・昼休み等で一生懸命練習してきたせいか各競技とも熱い戦いが繰り広げられ、それを見届けたかのように夕方から雨が降り始めました。

成績は表のとおりです。今大会でも、たくさんの反省すべき点ができました。それら反省を改善していき、これからもこの球技大会を、皆さんで楽しめて盛り上がれる、より良い球技大会となるようにがんばっていきましょう。

最優秀クラス	4M	優秀クラス	4E
種目	優勝	準優勝	M V P
ハンドボール	4M	5E	荒木 優
サッカー	4E	3C	岩橋 幸司
バスケットボール	4E(a)	5M	角田 淳
女子バスケットボール	3C(c)	3A	栗山 明子
卓球	2-3	2-4	川田 朋未



ロボット出前で活躍

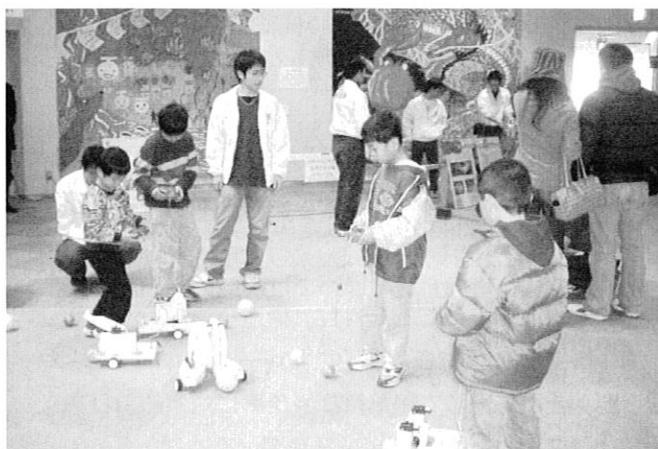
ロボット操縦体験
(おおむたエコタウンフェア2005)
(みんなで楽しもう体験コーナー大集合)

平成17年11月20日(日)に大牟田市エコサンクセンターで行われたエコタウンフェア2005に有明高専学生製作のロボットが参加いたしました。本校は「ロボットJリーグ秋の陣」として参加し、高専ロボコン九州大会に出場したロボットの実演(ロボット名:忍)、昨年4月に校内で行われたロボットGPにて優秀な成績であったロボットの複製による操縦体験、ロボットJリーグ2005用製作モデルロボットの操縦体験を行いました。200名を超える方々においでいただき、機械工学科と電気工学科学生の指導でのべ153名の小学生に操縦体験をしていただきました。

平成18年2月12日(日)に大牟田市石炭産業科学館で行われた体験コーナー「ロボットがやってくる」に本校のロボットが参加いたしました。当日は、高専ロボコン全国大会に出場したロボットの実演(ロボット名:Heavy級)とロボットJリーグ2005用製作モデルロボットの操縦体験を行い、のべ48名の小学生に操縦体験をしていただきました。実演・操縦体験共に機械工学科の学生に行っていただきました。



ロボットGP操縦体験（エコタウン）



ロボJ操縦体験（石炭産業科学館）

新学生会

ささき あきひこ
学生会会長 4I 佐々木 陽光



こんにちは!! 新学生会会長の4I 佐々木です。体育祭が終わり5年生も抜け新学生会としての初仕事だった冬季球技大会が無事に終わりました。まずはスタートが切れたと思います。

僕は1年のときから学生会役員としてやってきたので、会長になつてもやる事はたいして変わらないだろうと思っていたのですが、いざ会長になってみるとやることの多さにびっくりしてしまい、今だにいっぱいいます。なので鳥巣さんをはじめとする今までの会長達はすごいなあと改めて感心させられました。「今の会長になってダメになった」と言われたくないで先輩達に負けないように頑張りたいです。それには副会長の2人をはじめ学生会役員全體でまとまっていく事が必要だと思うので、皆で協力していきたいです。

ところでみなさんは「学生会」についてよく知らないと思いますが、そもそも「学生会」というのは有明高専の全学生で構成されています。普段「学生会」と呼んでいるのは「学生会役員」のことです。しかし、役員と名のつくほど偉いわけでもなく、やることも地味なことばかりです。学校生活の主役はみなさん一人一人です。自分達「学生会役員」はその手伝いをする脇役にすぎません。なのでみなさん一人一人が学生会の一員であり、学校生活の主役なんだということをしっかり自覚して楽しい学校生活を過ごしてほしいと思います。

みなさんが楽しい学校生活を過ごせるよう、学生会役員36名一丸となり一年間頑張っていきますので今後ともよろしくお願ひします。

平成18年度 学生会新役員

会長	▶ 4 I	佐々木陽光	3 M	末永 真裕
副会長	▶ 4 M	鋤先 秀耶	3 A	関 勇輝
体育局	▶ 4 I	辻 翔吾	1 M	柿原 隆宏
	2 M	新庄 佑規	3 C	藤田 恵
放送局	▶ 4 A	黒木 理恵	1 A	白神 知美
	1 M	杉野麻沙美	3 A	松野 宙
文化局	▶ 4 A	榮 寛子	2 E	渡邊 孝康
	3 M	友添 祐介	1 C	楠田 健人
	2 E	植尾 友紀	3 M	白倉 翔太
風紀局	▶ 4 M	石橋 慶一	1 A	小吹 義弘
	3 I	中村 浩之	3 I	市川雄太朗
	1 A	江頭 伸一	2 A	有吉ゆかり
会計局	▶ 4 I	大渕 喜子	3 C	大林 由季
	2 A	相浦 啓太	3 M	荒木 美英
涉外局	▶ 4 M	谷口 弘和	1 C	定 徹秀
	1 A	江口 翔平	3 A	三宅 静香
報道局	▶ 4 C	宮本 兼次	3 A	古賀 慎平
	3 M	蔵本 一生	3 E	
整備局	▶ 4 M			
	3 A			



体育系クラブリーダー研修

昨年の9月30日(金)、前期末試験最終日の14:00から、本校視聴覚教室において、平成17年度体育系クラブリーダー研修会が行われました。

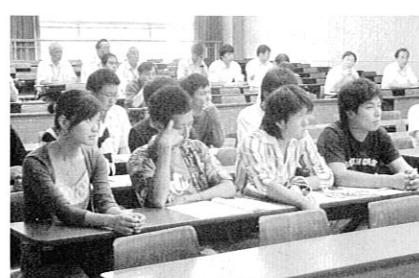
この研修は、体育系のクラブリーダーを対象に、リーダーの自覚とクラブ活動の活性化を図ることを目的に毎年行われていますが、昨年度から、研修の成果をより早くクラブへ還元できるようにと前期末試験後に実施されるようになりました。今年度もこの日、16クラブの新リーダー・顧問教員等53名が出席して行されました。

研修は、最初の全体会で塙本学生主事からのあいさつ

の後、3つのグループに分かれて「リーダーの仕事と役割」というテーマで分科会を行い、その討議内容が再び全体会で報告されました。各クラブとも、「今よりももっとよいクラブへの向上を目指す意気込み」を感じられる内容が報告されました。その後、クラブ活動中の事故等への緊急対処の方法等が確認されました。

新リーダーは、この討議で得たものを、これからクラブ運営等に活かしていって欲しいと思います。

(学生主事補 坂西 文俊)



岱明寮だより

寮長挨拶



4M 鋤先 秀耶

こんにちは。僕が岱明寮の新寮長となりました4年機械工学科の鋤先秀耶です。住み良い寮という言葉はとても難しいものです。貧弱だった寮の朝食はバイキング形式となり自分で好きなだけ食べられるようになりました。一般的家庭のような生活をおくることはできないと思いますが、寮の良い面を残しつつ、少しずつ変化させて行ければと思っています。

個人的には学生会副会長、部活動などもあり忙しくなりますが、副寮長の4A吉田君をはじめとする他の役員と協力しながら定例の仕事だけでなく寮で他の人の目につかないような小さな仕事もこなして行きたいです。

寮生送別会

岱明寮では5年生の卒寮を祝って、1月28日(土)に恒例の送別行事(予餞会)を実施しました。

予餞会は夕方6時より多くの教職員の方々に参加して頂き、寮食堂で行われました。会は二部構成でプログラムが組まれました。第一部では、尾崎校長先生、寮務主事の挨拶に始まり、会食をしながら卒寮生によるナレーション付きで懐かしいスライドを見て盛り上りました。その後、鋤先寮長の送辞、卒寮生代表の松永君の答辞、寮生保護者会より卒寮生へ記念品が贈られ、式典と会食を中心とした第一部を終了しました。

第二部では余興を中心に進行がなされました。若葉棟、桜棟、青葉棟の1年生と2年生の5グループによる寸劇と卒寮生から在寮生へのスピーチが交互に行われました。寸劇で盛り上がったりスピーチでしんみりしたり、思い出に残る楽しい一時を過ごしました。寸劇の最優秀グループと最優秀演技者に賞品が贈られ、参加者全員による万歳三唱で閉会となりました。

5年生の皆さん、卒寮おめでとうございます。岱明寮での生活は皆さん的人生の大きな財産となることでしょう。今後の健康と御活躍を祈念します。

(寮務主事 中島洋典)



最後は皆で万歳三唱



下級生が劇で予餞会を盛り上げてくれた

寮生会役員

平成18年2月16日現在

寮長 4M 鋤先 秀耶

副寮長 4A 吉田 大輝

副寮長 4A 黒木 理恵

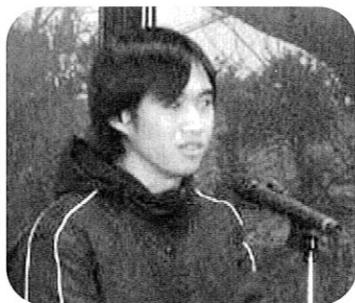
局名	局長	副局長	棟長	銀杏棟長	5A 高栄 智史
会計	4C 南 康洋		紅葉棟長	3A 安田 大地	
整美	1C 大園 啓太	1C 浅野 康之	青葉棟長	2A 福島 京一	
報道	4E 高田 俊輔	3C 尾迫 恵和	若葉棟長	4M 鋤先 秀耶	
娛樂	3A 長澤 一誠	3A 水城 悠	桜棟長	4A 黒木 理恵	
	委員(3I 下村 麻衣)	3A 山本 麻衣	桜副棟長	4E 矢島 真希	
				3I 前田 貴絵	
指導寮生	4M 鋤先 秀耶	4A 吉田 大輝	4A 鹿毛 肇嗣		
桜棟指導寮生	3C 深浦 仁美				*男子棟長・指導寮生は18年3月まで

留学生送別会

3月に卒業予定のキスルン君(5I)とエミさん(5C)の送別会が2月15日(水)に修己館食堂で行われました。尾崎校長先生をはじめ、日本語講師の坂口先生、担任を代表して5I担任の松野良信先生、在校留学生を代表してラフィック君(4M)、チューターの松永君(5I)、中村さん(5C)など2人とのかかわりの多かった方々から思い出や励ましのメッセージがおくられました。また、吹奏楽部からは「カントリーロード」の演奏で送別会を盛り上げていただきました。キスルン君、エミさんからは、有明高専に編入してから今日までの3年間の思い出や、先生方、友人たちへの感謝の気持ちや将来のことについて思いを語っていただきました。



留学生より



5I キスルン
(カンボディア)

東京にある日本語学校を卒業して、2003年に有明高専の三年生へ編入してきました。最初に大牟田に来た時に、言葉があまり分からなかったことを憶えています。東京では標準語だけ勉強しましたので、大牟田弁はまったく分かりませんでした。はじめて教室に入ったときも、みんなが話すことが聞き取れず困りました。でも、担任の先生とクラスの友達にやさしく言葉を教えていただき、だんだん分かるようになりました。

卒業後は、東京の方の大学へ編入しますが、この三年間の大牟田での思い出を大切にしたいと思っています。大学に入っても、またがんばりたいと思います。そして国に帰って自分の国のために役に立つような仕事をしたいと思います。



5C エミ
(マレーシア)

4年前、日本に留学してきました。1年間東京の日本語学校にかよってから、大牟田にきました。あっという間に、3年も経って、有明高専の勉強も終わってしまいました。編入学式が昨日行われたばかりのような気がするのに、もうすぐ卒業式です。

この3年間、学校の勉強だけでなく、いろいろな体験もでき、日本の文化に触ることができました。体育のとき剣道を学んだり、学生旅行で茶碗作りをしたり、着物を着たりしたことは一生忘れられません。球技大会も、高専祭も、体育祭もすべてが良い思い出になりました。

先生方には、私のために補習をしてくれたり分からないところを優しく教えてくれたり、心から感謝しています。

寮母さんをはじめ寮の方々は、ホームシックになったときや、病気にかかったりいろいろなことに悩んだりしたときも自分の子供のことのようにアドバイスしてくれました。ありがとうございました。

初めて日本の友達が出来たのも、有明高専に来てからのことでした。日本語が通じないなどの不安を抱えていましたが、クラスの友達が、日本語を教えてくれたり、一緒に勉強したり、遊んでくれたりしたおかげで、楽しい毎日を送ることができました。

これから私は長岡技術科学大学に編入学します。これから、有明高専に来る機会はなかなかないかもしれません、この3年間は私の人生のとても大切な部分になりました。いろいろな面で学習ができて、自分が前よりますます成長してきた気がします。

長いようで短いような3年間。その間に皆さんにたくさん迷惑をかけましたが、最後まで面倒を見てくださった先生方をはじめ、皆さん、大変お世話になりました。心から感謝しています。ありがとうございました！

トピックス

第37回定期演奏会を終えて

3 | 前原加代子

私達、吹奏楽部は1月21日(土)に大牟田文化会館で第37回定期演奏会を行いました。当日は寒い中、たくさんの方々にご来場頂き、ありがとうございました。

1年前から少しづつ準備をしていたにもかかわらず、直前になってバタバタしてしまい、どうなってしまうのか当日の朝まで心配していました。演奏は完璧と言えるものではなかったと思いますが、私達の思いを少しは皆様にお伝えできたのではないかと思います。

今回の定期演奏会を開催するにあたり、御協力頂いた諸先生方、企業の皆様、O B・O Gの皆様、保護者の皆様に心から御礼申し上げます。これからも吹奏楽部をよろしくお願い致します。



第二部のステージより（大牟田文化会館大ホール）

建築設計競技



アクロス福岡での授賞式の様子

(社)福岡県建築士事務所協会主催の平成17年度建築設計競技で今年も本校から多数の学生が入賞しました。今年の課題は高等学校生の部、専門学校生の部とともに「郊外に建つコレクティブハウス施設（一人でも安心して暮らせるこれからの新しい居住の形）」でした。高校生の部には県内から59作品の応募があり、3 Aの水城悠君が福岡県教育委員会賞、山本麻衣さんが（財）福岡県建築住宅センター理事長賞、瓜生なつみさんが会長賞、堀川智代さんが（社）福岡県建築士会会長賞、古賀由希さんが銀賞を獲得しました。その他、佳作に3名、入選に4名、計12名が入賞し、優秀学校賞の団体賞を受けることができました。専門学校の部には県内から127作品の応募があり、4 Aの野上綾子さんが福岡県教育委員会賞、浦田美記さんが銅賞を獲得し、佳作に1名(4 A)、入選に6名(4 A: 3名、5 A: 3名)が選ばれました。授賞式は11月18日(金)にアクロス福岡の1階円形ホールで行われました。皆さんの健闘により、今年も良い成績を収めることができました。これを励みにして一人一人の個性と才能をもっともっとのばしていってくれれば幸いです。 (A科 中島美登子)

全国高専デザインコンペティション 2005

—11月18・19日、「全国高専デザインコンペティション 2005 (兵庫県明石市)」に、3 Aと5 Aの学生が参加しました。

3 Aの学生8名(2チーム)は、「構造デザインコンペティション」に参加しました。これは、300g以内の木製の橋がどれくらいの重量に耐えられるかというコンテストです(缶ジュースは350g)。結果、Bチームは自重の15倍にあたる45kg、Aチームは6.7倍の20kgに耐えることができました。いろんな高専の人たちが作った橋を見ると、様々な工夫があり勉強になりました。他の高専の人たちと話す機会もあり、良い経験になりました(3 A山下妙子さんほか)。

5 Aの中島宏典君と前田千香さんも「環境デザインコンペティション」の予選を勝ち抜いて本選に参加しましたが、残念ながら入賞には及びませんでした。

(A科 加藤浩司)



本校の参加者（会場にて）

編集後記

人類の文化史の中で、庭園は重要な位置を占める。パーソナルな坪庭から国家規模の大庭園に到るまで、様々な形態の庭園が、時には殺伐とした歴史に彩りを添えながら、連綿と存在してきた。それは、庭が私たちに包み込むような安らぎと、ほっと一息つくような癒しをもたらすからであろう。本校はガーデンキャンパスと呼んでいいほど庭が多い。友夢創家(トムソーや)の庭、夫婦梅の中庭(機械棟)、藤棚の庭(電気・建築棟)、金木犀の庭(物質棟)、楊梅の前庭(図書館・事務棟)等、いずれも季節感のある個性豊かな私たちの庭だ。四季折々の庭めぐりも楽しからずや。

有明高専だより 第118号

平成18年3月3日

編集・有明高専広報委員会

発行・有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861(学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>